

2020年9月17日
SOTG 委員会通知 2020-05号

「WFDF アルティメット公式ルール付帯資料 v4.0」の 日本語訳 v1.0 の公表について

2020年1月に行われた「WFDF Rules of Ultimate 2017 – Appendix」（日本語訳：「2017年度発行 WFDF アルティメット公式ルール付帯資料」）の改正を受けて、当該資料の日本語訳を以下のとおり公表いたしました。主要な改正点につきましては、本通知の別紙をご参照ください。

資料名：2017年度発行 WFDF アルティメット公式ルール付帯資料 v4.0 日本語訳 v1.0
リンク：https://www.jfda.or.jp/web/wp/wp-content/uploads/2020/09/AppendixUltimate2017_v4.0-1.pdf

以上

表 WFDF Rules of Ultimate 2017 – Appendix v4.0」の主要な改正点

改正の概要	改正箇所
<p>「タイムリミット・バイオレーション」に関する罰則</p> <p>変更点①：罰則の内容（オフェンス側のチームが反則をした場合） 自陣エンドゾーンの中心からチェックによってプレイを再開するのではなく、スローワーが公式ルール 7.9、7.10、7.11、7.12 に沿ってピボットを確定した後、タイムアウト終了後と同じようにプレイを開始します。</p> <p>変更点②：罰則の内容（ディフェンス側のチームが反則をした場合） プレーイングフィールドの中心からチェックによってプレイを再開するのではなく、ディスクの落下地点に関わらずオフェンス側のチームはブリックポイントとスローオフをキャッチしたポイントのどちらからプレイを始めるかを選ぶことができます。（どちらの地点からプレイを始めてもチェックは不要）。</p>	A5.4.5
<p>「オフサイド・バイオレーション」に関する罰則</p> <p>変更点①：罰則の対象 「2 回目以降」という回数制限がなくなり、すべての「オフサイド・バイオレーション」が罰則の対象になりました。</p> <p>変更点②：罰則の内容（オフェンス側のチームが反則をした場合） （「タイムリミット・バイオレーション」に関する罰則の内容に同じ）</p> <p>変更点③：罰則の内容（ディフェンス側のチームが反則をした場合） （「タイムリミット・バイオレーション」に関する罰則の内容に同じ）</p>	A6
<p>ブロック後の身体接触に関する「レシービング・ファール」の適用基準</p> <p>変更点 ディスクの所有権が決定された後に発生した接触は「レシービング・ファール」や「オフセティング・ファール（ファールの相殺）」の根拠にはならないと明記されました。</p>	A7
<p>写真またはビデオ映像の使用方法</p> <p>変更点 コート内の選手から質問された場合、結果が自分のチームにとって不利な場合に限り、コート外のメンバーが写真やビデオ映像に基づいてアドバイスを提供することができるようになりました。</p>	B7.1
<p>ハンドサイン</p> <p>変更点 「インジャリー」「テクニカル」「4 メン」「4 ウィメン」のハンドサインが変更になりました。（上：旧ハンドサイン／下：新ハンドサイン）</p> <div data-bbox="343 1615 1104 2051" style="text-align: center;"> <p>18. (その他の) 中断 「インジャリー」「テクニカル」</p> <p>19. 男性4名 女性3名 「4 メン」</p> <p>20. 女性4名 男性3名 「4 ウィメン」</p> <p>18. Stoppage Injury, Technical</p> <p>19. 4 men, 3 women 4 men</p> <p>20. 3 men, 4 women 4 women</p> </div>	F2